

♪すずしいかぜがふいてくる あきはなんていいきもち♪ と子どもたちと歌いながら、この気持ちのよい秋の日々の生活を積み重ねています。保育室の前のテーブルに、登園した子どもたちが持ってきたどんぐり、松ぼっくり、葉っぱ、花、などを飾っていると、「このテーブルがどんどん秋になっていく～～」と A ちゃん。庭で大きい組が集まって『うんどうかい』の準備をし始め、ダンスの曲が流れると「うんどうかいが始まるのかなー今日もみてくる～」と庭へ出かけていく B ちゃん。秋から冬にかけてのこの季節を、子どもたちと共に心も体も思い切り動かして過ごしていきたいと思います。

「ぼく、カラスになるから後できてね！！」 2学期の保育の視点③より  
ー集まりや共有の遊びを通して、  
保育者や友だちといっしょにいる楽しさを感じるー

2学期に入ってから、子どもたちは毎日のように犬、猫、ネズミ、セミ、カマキリ、ワニ、など動物や虫になりきって家を作っています。また時に新聞紙を折ってぼうしを作り、耳をつけ、子どもたち同士で、家をつくり、いっしょに遊ぶ姿があります。私は、そのようなごっこが好きな子どもたちと、共通の絵本の世界を楽しみたいと思っていました。そこで、『こすずめのぼうけん』（ルース・エインワース作 福音館書店）のお話を楽しむことにしました。このお話は、こすずめがお母さんすずめから離れて、カラス、ヤマバト、フクロウ、カモに会いに行くお話です。私は、1学期にも時々すずめごっこをしていた子どもたちですから、「きっとこのお話を好きになるだろう」そして「なりたい鳥になってお話の世界を楽しむだろう」と予想して、始める前から子どもたちとどんな風に過ごそうかとワクワクしていました。

ある日子どもたちに、スモックから腕をぬき、スモックを羽にみたてると鳥になれることを伝えました。一人が鳥になるとあっという間に「ぼく、すずめになる～」「わたしもなりたいけれど、どうやるの？」と子どもたちが集まってきました。そしてすずめごっこが始まりました。私がお母さんすずめになって仲間に入り、すずめになった子どもたちに飛び方を教えます。すずめはいつのまにかどんどん増えていました。

その日から、毎日すずめになっている C ちゃんがありました。C ちゃんは、朝登園して支度が終わると、すぐに新聞紙を取り、すずめのぼうしを作り、スモックをはおります。そして他に後から友だちがくると「すずめのいえはここだよー」とさそっていました。ある日 C ちゃんが、「せんせい、ぼくあっちで家つくって

カラスになってるから、後できてね」と言ってきました。これまでCちゃんは自分からやりたい遊びを見つけることが難しい子どもでした。私はそのCちゃんの言葉が嬉しく「後ですずめたちと行くわね!」と答えました。Cちゃんは時々「かあかあ」と鳴きながら家を作り始めました。Cちゃんはカラスになりきっています。しばらくたって大勢のすずめたちとCちゃんのカラスの家に行くと、嬉しそうに誇らしげに「お前さん、かあかあかあって言えるかね?」とっていました。

Cちゃんのようにお話の世界を楽しみながら、友だちと心を合わせている子どもたちがたくさんいます。この時期に、何かになりきる楽しさを知り、そばにいる友だちと「楽しいね」「またやりたいね」と思える体験を積み重ねてほしいと願い支えていきます。

「いっしょにあそびたいんだけどな、、、、」

2学期の保育の視点④より

ー待つこと、我慢すること、ゆずることを体験するー

ある日、DちゃんがEちゃんに「いっしょに外であそぼう」と言いました。「私は部屋で遊びたいからだ一めよ」とEちゃん。DちゃんはEちゃんといっしょに遊びたい気持ちが強かったのでしょうか。「外でいっしょにあそぼうよー、なんで?いっしょにあそぼうよー」と何度も誘います。やがてEちゃんは「いやだ!!部屋でちょうちょを作りたいの」と、すっぱり言いました。悲しくなったDちゃんは、目に涙をにじませます。私は、DちゃんとEちゃんのそれぞれの気持ちを代弁し、「DちゃんはEちゃんと遊びたかったのね。でも今日はEちゃんの遊びたいことが違ったのね。また今度いっしょに遊べるといいわね」と伝えました。Eちゃんは「うん」とうなずき、ちょうちょを作りにお部屋に入っていました。Dちゃんは泣いています。私はDちゃんの気持ちが落ち着き、切り替わるのを待ちながらDちゃんを抱いて廊下の椅子に座り、しばらく庭の様子を見ていました。しばらくしてから私が、「大きい組、これからかけっこするのかしら?」「Dちゃんもダンス好きよね」等と話しかけているうちに段々Dちゃんの体の力が抜けていきました。「庭にいっしょにいつてみる?」とDちゃんに聞くと「うん」と言い靴を履き始めます。その後ろ姿には、Eちゃんと遊びたかった気持ちを整理しているDちゃんの気持ちが感じられました。Dちゃんは庭を散歩していると、段々遊びたい気持ちになってきたようでした。「砂場しよう」と言います。私とDちゃんと一緒に砂場で穴をほりました。Dちゃんは片づけまですずっと穴掘りを続けていました。

「いっしょにあそぼう」と声をかけても、いつも「いいよ」という返事がかえってくるわけではありません。「いやだ」「また今度」と断られてしまうこともあります。私は、2学期になって子どもが思い通りにいかないことを受け入れ、気

持ちを切り替えることをしなくてはならない場面をよく見かけます。その時私たちは、「悲しいね、でも仕方ない。また今度」と気持ちを受け止め、そっと共にいたり、おしゃべりや遊びを通して、前に進んでいけるよう関わっています。一方でNOと言えることは大切であるけれど、「いやだ」のことが強すぎると、相手を悲しい思いにさせてしまうことを教えていくこともしています。そしてそれに代わる言葉（例えば「ごめんね」「また今度ね」など）が生まれるよう関わっていきます。

(井上 直子)

<年少組 11月>

みんなですずめごっこ



ふくろうになった子どもたち



「もうすぐケーキができるよ」



くぎうちをはじめました

